



新堀小だより

笑顔・挑戦・誇り 学校有用感あふれる新堀翔楽光(しょうがっこう)

7月号
令和8年7月1日発行
校長 川南 真一

新堀小 HP



乗り切る力

【今まで経験したことのない…】

「今まで経験したことのない……」この言葉をテレビ番組のアナウンサーから聞くことは、近年、珍しくなくなりました。集中豪雨や地震などの天災だけでなく、公共の場で殺傷事件が起こる、車が人混みの多い場所に突入する、他人の家に集団で押し入り、短時間で金品を奪っていくなど、至る所で「今まで経験したことのない」出来事が起きています。そのような時代に生きる子供たちは、常に想像の域を超える課題に向き合わなければなりません。「どうして避難指示がもっと早く出せなかったのか」と人を責めても、亡くなった命は戻りません。一人一人が、その時々自分にできる精一杯のことを判断し、自分で自分の命を守る力を身に付けなければならないのです。

では、自分で判断し、自分の身を自分で守るために、日頃大切にすべきことは何でしょうか。私は二つあると考えます。一つは「経験」です。今までに経験したことのない出来事に出会ったときに必要なのは、これまでに積み重ねてきた経験です。そこから推測し、判断していくことが求められます。したがって、たくさんの経験を通して、多くの判断材料を持っていることが望ましいといえます。もう一つは、危機を回避するための「想像力」です。経験の有無にかかわらず、ある活動や行為をすることでどのようなことが起こり得るのかを想像し、思い起こす力が求められます。

見方によっては、子供たちに多くのトラブルを経験させることも大切であるかもしれません。地震や台風であれば、過去の経験をもとに防災グッズを用意したり、避難の方法を考えたりすることにつながります。学校生活では、心のトラブルも重要な経験です。子供のうちには、けんかをすることもあるでしょう。意地悪をして相手が傷つく様子を見たり、ひどく叱られたりすることもあるかもしれません。繰り返す起こることは望ましくありませんが、子供が学びの機会として経験し、「次はどうしたらよいか」と

想像を働かせることで、新たな困難を乗り越えていくのだと考えます。

学校では、安全・安心のための様々な教育活動を通して指導を行っています。交通事故、不審者、火事、人間関係、SNS、食物アレルギー、地震、豪雨、洪水など、命にかかわる危険は、天災から人災まで数多くあります。すべてのことに常に完璧な答えを出していくことは難しいですが、危険は常に身近にあるという意識を、日頃から育てていきたいと考えています。

【困った際は連絡・相談を】

1学期も、残り2週間余りとなりました。保護者・地域の皆様には、日頃から学校へのご相談やご連絡、地域での様子についての情報提供をいただき、ありがとうございます。皆様のお力添えに、心より感謝申し上げます。

子供たちにとってよりよい学校づくりを進めるためには、学校だけでなく、家庭や地域の皆様とのつながりがとても大切です。今後も、個別のご相談やご要望、地域で気になることなどがありましたら、電話や連絡帳、C4thのメール等でお知らせください。内容によっては、すぐにご希望に沿えないこともあります。一つ一つ確認し、必要に応じて学年担当や管理職が直接お話を伺いながら、丁寧に対応を考えてまいります。

まもなく長期休業を迎えます。休業前に気になることや相談したいことがありましたら、どうぞご遠慮なくご連絡ください。今後とも、子供たちの健やかな成長のために、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

6月に校長室企画で、「1日校長」を募集したところ、抽選で3名に体験してもらいました。また、初代1日校長の就任時にはテレビ埼玉の取材があり、その取組が放送されました。

